

販路拡大中 自慢の逸品を全国にアピール

2月13日(水)から15日(金)までの3日間、幕張メッセ(千葉県)で開催された「第53回トレードショー2019」へ、大洲ええモンセレクション認定7事業者がエントリーしました。

この大商談会への出展は、「平成30年度大洲ええモンセレクションブランド戦略支援事業」の一環であるとともに、今年度の販路開拓の集大成として参加しました。今回エントリーした7事業者は、販路拡大に向けた自社製品の売り込みなどの思いを持って商談を行いました。



優しい味わいの「◎たつみ麦みそ 粒(甘口・中辛)」や、農薬化学肥料不使用の愛媛県産米を使用した「◎手造りあまざけ 自然派」、「◎しいたけとこんぶの佃煮」、◎みがらしみそ」や、首都圏でも人気の無添加の天然醸造醤油各種など多数の商品について、試飲とともに丁寧にPRしました。



河辺の未来を考える会 (初出展)

アマゴと出汁を入れるだけで作れる「◎あまごめしの素」、河辺産のトマトを使用した添加物不使用の「とまとじゃむ」、シイタケの旨味が詰まった「原木しいたけの水煮」を出品し、河辺の地域性を含めた商品PRを行いました。試食提供したあまご飯は、アマゴを食べたことのない人にも好評でした。

株式会社 梶田商店 (初出展)



有限会社 玉井民友商店

愛媛県産のタケノコを地元のみそで漬けた「◎筍のみそ漬(カット)」や、宇和海のちりめんを使用し、化学調味料・保存料不使用の「ちりめん梅高菜混ぜご飯の素」、新商品の「切り干し大根しよゆ漬」など、老舗漬物店として、素材の味を生かした商品作りの技量をアピールしました。

養老酒造 株式会社



芳醇な麴の香りを楽しめる生原酒の「◎清酒純米にがり風の里」は、約1年前に仕込み冷蔵保存していたものを試飲提供しました。甘みの増したまろやかな飲み口は、本物志向のバイヤーの舌をうならせました。7月豪雨の被害を乗り越え、3月に仕込みが完了する当商品の新酒の微炭酸でフレッシュな飲み口もPRし、積極的な商談を行いました。

「こし餡」を「大洲産の風味豊かな栗を使用した栗餡」で包んだ「栗華の宴」を試食提供し、2度裏ごしをした栗餡の滑らかな舌触りと、ラム酒による栗の深い風味をアピールしました。また、これまで店舗のみで販売していた「志ぐれ」も販路拡大に向け出品し、新たな展開につながる商談を行いました。



有限会社 ヒロファミリーフーズ
(ピストロサンマルシェ)

ひらのや製造本舗
(初出展)



大洲産のお米を使った地元農家とのコラボ商品「◎杵つき餅カレー」「◎杵つき餅のラザニア」「◎杵つき餅ストローネ」や、地元農家の無農薬ニンジンを使用したデザートソース「6・5キャロットの涙」を出品しました。多くの人の目を引く、新しい商品ラインナップで積極的な商談を行いました。

大洲産のサトイモを使用した「◎いもカレー」や、大洲の新しい食文化として、いもたきのおいしさを生かした今秋発売予定の新商品「いもたきカレー（仮称）」、愛媛県産の栗を使用した「栗ごはんの素」などの自社商品や、受託製造商品など、素材の力を引き出す技術をアピールしました。

株式会社 サンフーズ



大洲のええモン 全国に向けて

今回は昨年度に引き続き、大洲市の事業者が愛媛県共同ブースで2年連続出展し、来場した約9万人のバイヤーなど業界関係者に向けて、「大洲のええモン」の売り込みを行いました。既に成約した商談や、商談中の案件もあり、大きな成果に向け、取り組んでいるところです。

1月には首都圏のバイヤー6社を大洲市に招へいし、商談会を開催しました。出展した市内の12事業者は、バイヤーに対し熱い商品PRを行い、有意義な商談会となりました。

2月から3月末には、東京都内の飲食店において、大洲ええモンセレクトション認定商品や大洲市内で収穫された農林水産物を使ったメニューを提供しています。販路開拓に向け、大洲産品の豊かな味わいと地域の魅力を多くの人に発信していきます。

平成24年度に始まった大洲ええモンセレクトション認定制度は今年

で7年目を迎え、現在22事業者55品目が認定されています。「大洲のええモン」は、全国に誇れる商品・食材であるとともに、食べていただいた人の心を豊かにする力があります。

今後も大洲市は、事業者とともに誇りをもって大洲産品を売り込み、大洲市の認知度向上や地域産業の振興、雇用創出、観光誘客など地域の発展につながるよう、積極的に取り組んでいきます。





地域防災力の中核として 平成31年大洲市消防出初式

平成31年大洲市消防出初式が、3月3日(日)に行われました。この日は降雨のため、大洲市民会館での開催となり、市内各地から1316人の消防団員が参加しました。

式典では、殉職消防職団員に対する黙とうを捧げた後、二宮市長が「昨年の豪雨災害では、多くの消防団員に出勤していただき、大変感謝している。今後も、地域防災力の要として、災害に強いまちづくりにご協力をお願いしたい」と式辞を述べました。

表彰では、活動に功績のあった団員などに表彰状や感謝状が贈呈されました。受章者を代表して北分団谷本直俊なほとし分団長が「今回の受章は、支えてくれた家族や、消防団活動への理解をいただいた職場のみなさんのおかげである。本日の感激を深く胸に刻み、地域住民の生命と財産を守るという、消防使命の達成に向けて、訓練を重ねたい」と謝辞を述べました。

出初式の音楽演奏は大洲北中学校吹奏楽部が担当しました。式後には、帝京幼稚園の園児による防火パレードがあり、式に華を添えました。



今回の出初式で表彰されたみなさんは、次のとおりです。
(敬称略・一部省略)

消防庁長官表彰

永年勤続功労章 (3人)

副団長 松田 裕之
 肱南分団 分団長 白石 卓也
 平野分団 分団長 松本 喜吉

日本消防協会会長表彰

功績章 (1人)

副団長 山口 喜生

精績章 (3人)

肱南分団 分団長 白石 卓也
 白滝分団 分団長 岡崎 浩幸
 大谷分団 分団長 久保 壽男

勤続章 (10人)

副団長 山口 喜生
 副団長 松田 裕之
 肱南分団 班長 岡田 眞次
 柳沢分団 副分団長 西岡 健二
 柳沢分団 団員 福住 幸尚
 栗津分団 部長 祖母谷 信幸
 長浜分団 部長 友澤 道明
 櫛生分団 部長 城戸 清
 白滝分団 団員 上満 理宏
 予子林分団分団長 濱田 律朗

愛媛県知事表彰

功労章 (8人)

肱南分団 副分団長 久保 伸介

愛媛県消防協会会長表彰

功績章 (6人)

肱北分団 分団長 谷本 直俊
 柳沢分団 副分団長 西岡 健二
 三善分団 副分団長 信尾 邦彦
 上須戒分団副分団長 政所 俊司
 出海分団 副分団長 高岡 昭一
 中央分団 副分団長 金野 信子
 女性分団 部長 黒田 信子

勤続章 (20年以上)

6人

菅田分団 分団長 西岡 裕一
 栗津分団 分団長 増田 吉邦
 大和分団 分団長 二宮 孝志
 中央分団 分団長 徳見 和也
 河辺分団 分団長 國井 幸恵
 女性分団 分団長 澤山 徳次
 勤続章 (15年以上) 21人
 菅田分団 班長 城戸 智司
 大川分団 班長 黒田 祥史
 栗津分団 団員 佐々木 敏久
 上須戒分団 団員 金山 久
 肱南分団 団員 柿見 一郎
 肱北分団 班長 石村 洋平
 平野分団 班長 竹本 安文
 南久米分団班長 池田 哲也
 菅田分団 部長 谷村 幸紀
 大川分団 部長 中塚 寛之
 柳沢分団 部長 成見 政義
 新谷分団 団員 河田 光雄
 三善分団 団員 土居 伸也
 栗津分団 班長 好崎 樹憲

(10年以上〜15年未満30人)

勤続章

上須戒分団 団員 梶谷 洋平
 長浜分団 班長 井上 洋一
 櫛生分団 団員 山本 晋也
 大和分団 団員 植本 浩幸
 白滝分団 団員 叶本 征士
 中央分団 班長 和氣 寛樹
 正山分団 班長 松本 庄一
 大谷分団 班長 寺岡 孝
 河辺分団 班長 富永 吉徳
 女性分団 班長 梅木 由紀
 女性分団 班長 山本 晴美
 菅田分団 班長 柴田 圭二
 肱南分団 班長 白石 尚寛
 肱北分団 班長 倉谷 雅也
 肱北分団 班長 脇野 久男
 平野分団 班長 瀧野 健史
 平野分団 班長 大谷 健二
 南久米分団 班長 菊地 政博
 菅田分団 班長 別宮 雄介
 菅田分団 班長 富永 太一
 大川分団 班長 山首 博幸
 大川分団 班長 赤杖 孝司
 柳沢分団 班長 久保 幸一
 新谷分団 班長 森野 悟志
 新谷分団 班長 長田 清孝
 徳永 弘志
 都築 久志
 大宮 英和
 石田 桂祐
 松岡 清也
 喜多灘分団 班長 西田 恒
 櫛生分団 班長 石山 大

家族内助の功労章 (1人)

松田加世子 (松田裕之の夫人)

優良団体表彰 (2団体)

大川地区自主防災組織 二宮 誠
 大川地区婦人防火クラブ 寄町 佳子

大洲市長表彰 (54人)

大洲喜多消防団連合会会長表彰

規律章 (20人)

勤続章 (33人)

大洲市消防団長表彰 (63人)

また、大洲市消防団は、平成30年度において、次の賞を受賞しました。

- ▽総務大臣感謝状
- ▽水防功労者国土交通大臣表彰
- ▽防災功労者消防庁長官表彰

ありがとう河辺中 45年間の感謝を込めて

河辺中学校で2月23日(土)、統合45周年記念式(ありがとう河辺中学校舎)が開催されました。この行事は、老朽化や耐震性の問題で校舎の使用が困難となり、平成31年度から河辺小学校舎に移ることが決まったために行われました。

現在の河辺中学校は、旧河辺中学校と旧北平中学校の統合により昭和49年に誕生し、以来45年間多くの卒業生を送り出してきました。統合初年度には、214人の生徒がいましたが、平成30年度は10人となり、うち4人は3月で卒業しました。



記念式で、河辺中学校の片山公由校長は「校舎を離れても河辺中学校は存続する。今後とも、変わらぬ愛情を注いでほしい」と式辞を述べました。また、生徒会長の森川慎太郎さんは「この校舎で過ごした日々は、色あせることなく心の中に残る。歴史と伝統を受け継ぎ、未来へとつなげたい」とあいさつしました。

その後、45年間の歴史を振り返る映写会、ドローン撮影会や餅つき大会などがあり、卒業生や地域住民など300人を超える参加者たちは45年の思い出に浸っていました。

舞台と客席が一体となって ~第38回芸能発表会~

大洲市文化協会長浜支部による芸能発表会が2月24日(日)、長浜ふれあい会館で開催されました。郷土芸能・吟詠・民謡・コーラスなど19団体が一同に会し、日頃の練習の成果を発表しました。

出演者が醸し出す心地よい緊張感と、観客席からの温かいまなざし、そして鳴り響く惜しみない拍手が会場を包み込み、素晴らしい発表会となりました。



子どもの健やかな成長を願って

大洲市立菅田保育所落成式が、2月21日(木)に開かれました。旧園舎は、建築から50年以上経過していて、安全確保と一層の児童福祉の向上のため建て替えられました。新園舎は、「杜の中の保育園」をコンセプトに地元産の木材が多用されました。

式では、保育会会長の城戸忍さんが「子どもたちが、この保育所で遊びながら成長することを楽しみにしている」とあいさつしました。式後には、園児による和太鼓の発表会が行われました。



わがまちの自慢を30秒のCMで紹介

今回で14回目を迎える「ふるさとCM大賞えひめ」の審査会が、2月17日(日)、松山市総合コミュニティセンターで開催されました。

大洲市からは、肱川地域おこし協力隊と肱川プロジェクトの2団体が作品を提出しました。肱川町の魅力をはじめ、復興に向けて励ましてくれた人への感謝の気持ちをCMで伝えました。

肱川地域おこし協力隊が制作した作品「ありがとう。」は、県町村会長賞に選ばれ、県内で年間60回放送されます。



より早く、より正確に

全国なわとびスピードコンテスト出場決定

1月13日(日)に、国立大洲青少年交流の家で開催された全国なわとびスピードコンテスト四国予選で、大洲市から出場した2チームが優勝・準優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

2月22日(金)、それぞれのメンバーが市役所を訪れ、四国予選の結果と、3月30日(土)に名古屋市で行われる全国大会への出場の報告を行いました。選手のみなさんは、「ミスなく飛びきたい」「練習の成果を発揮して日本一を目指したい」と抱負を語りました。



黄：喜多っ子アストロズ
青：大洲なわとびクラブ

さらなる技術の向上を目指して

「えひめ愛・野球博」野球教室が、2月17日(日)、国立大洲青少年交流の家で行われました。この催しは、野球王国・愛媛の発展や地域活性化を図るために、野球をテーマとしたイベントなどを行う事業です。当日は、市内の野球チームなどから小中学生約130人が集まりました。

はじめに、大洲市スポーツ協会会長の佐伯幸一こういちさんが「今日の野球教室で、もっと上を目指すにはどうすればいいかを学んでほしい。大きな声を出して楽しんでください」とあいさつしました。



野球教室では、宇和島市出身の元プロ野球選手である岩村明憲あきのりさん(福島レッドホープス監督)と、愛媛マンダリンパイレーツの選手10人がコーチを務めました。ウォーミングアップでは、日頃から行うストレッチの重要性や、どこの筋肉が伸びているのか意識することを伝えていました。

キャッチボールの後には、複数チームに分かれてバッティング練習や守備練習が行われました。子どもたちは、プロの技術を参考にしようと真剣な表情で練習に臨んでいました。



「第18回版画絵はがきコンテスト」作品展

肱川風の博物館・歌麿館で募集していた「第18回版画絵はがきコンテスト」について、審査会が行われ入賞者が決まりました。応募のあった約800点の作品は、6月17日(月)まで風の博物館に展示します。ぜひ、この機会に作者の思いが詰まった作品をご覧ください。

入賞したみなさんは次のとおりです。(敬称略)

		一般の部	中学生以下の部
大賞		①大森 <small>すみお</small> 清男	②富永 <small>のえり</small> 乃愛留
優秀賞		③東山 <small>ひがしやま</small> 翼也	④山崎 <small>せいら</small> 星来
		⑤菊地 <small>きくち</small> よしつね	⑥山本 <small>さくら</small> 咲蘭
特別賞	大洲市長賞	牛田 <small>かつひこ</small> 克彦	西山 <small>のどか</small> 和花
	大洲市教育長賞	佐藤 <small>ひろふみ</small> 博文	松岡 <small>じゅん</small> 潤
	風の博物館長賞	川野 <small>かずお</small> 和男	岩岡 <small>だいき</small> 大輝
	大洲郵便局長賞	上林 <small>まこと</small> 眞琴	田村 <small>とうま</small> 斗誠
	肱川郵便局長賞	黒川 <small>えいち</small> 英一	梅木 <small>そうや</small> 創哉
	予子林郵便局長賞	大門 <small>こうぞう</small> 孝藏	畦田 <small>ふうか</small> 風花
	竹中木版竹笹賞	蔭山 <small>かげやま</small> 茂富	菊池 <small>けいた</small> 奎大
	山田きよ賞	土田 <small>まさる</small> 勝	井上 <small>みゆう</small> 未優
入選		10人	10人



【一般の部大賞①】「復興への漁火」



【一般の部優秀賞③】「宵あかり」



【一般の部優秀賞⑤】「春の息吹」



【中学生以下の部優秀賞⑥】「実り」



【中学生以下の部優秀賞④】
「ファーストたのしい！（やきゅう）」



【中学生以下の部大賞②】「私の学校」

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

今月号で、大洲商工会議所青年部の大洲ご当地クイズは終了します。大洲の魅力を親しみやすいクイズにして知ってもらおうと、ご当地クイズが始まりました。魅力を知って、大洲のことを好きになっただけでは、自分たちの町を好きになれば、大洲に帰ろうと思ってくれるかもと、淡い期待をいただきつつ、好きな場所、食事、イベント、大好きな人が居る町になればと思い、続けてきました。

私は、大学進学で県外に出た際、「あなたの地元はどんな所ですか」と聞かれ「なにもない、つまらない所」としか答えることができませんでした。情けなく、辛い思い出。進学や、就職で大洲を離れるのは、仕方のないこと、という気持ちもありますが、「あなたの地元は、どんな所ですか」と尋ねられた際に「なにもない」ではなく、「素晴らしい魅力ある町です。一緒に遊びに行きましょう」と誇れる町に、そして答えることができるとなると、嬉しい、と思いつつ、5年間でした。

読者のみなさん、クイズに関わっていたらどうだったのでしょうか。本当にありがとうございます。大洲が大好きという思いは変わりません。

【3月号のクイズ解答・解説編】

先日「2ツ目」に昇進し、「真打ち」を目指す大洲出身の落語家は誰でしょうか。

- ① 立川志ら門しんもん
- ② 柳家権之助ごんすけ
- ③ 古今亭菊志んきくしん

正解：①

解説：立川志ら門さんは、大洲市出身の落語家です。前職は、テレビ作成に携わるも、落語に出合い、落語家に転身。真打ちを目指し、奮闘中。

志ら門の「門」という字は、前の師匠から破門されたため。浪速恋しぐれを地で生きていくような破天荒ぶりが、落語に生かされるはず。みなさんも、応援よろしくお願いします。



文化財

田処熊野神社のカヤ市指定天然記念物
熊野神社所有



この木は、矢落川上流部の左岸にある熊野神社の境内に立っています。この熊野神社には、「元和元（1615）年、紀伊国の熊野三山の宮司兄弟が不仲となり、弟・藤大夫が宝物などを持ち出して、田処シダ山に祭ったのが神社の起源」という伝承が残されています。

この木は雌木で、樹高約20m、枝張りは東西約21m、南北約25.5mになり、樹齢は約500年と推定されます。市内のカヤとしては「田口天満宮のカヤ」（田口）と、ほぼ同じ規模を誇ります。

カヤの周辺を杉の大木が囲んでいるため樹冠は整っていませんが、大枝が不均等に広がった様子は、歴史ある熊野神社と同様に偉容ある風格を醸し出しています。

（昭和38年7月1日指定）

野鳥

ムネアカタヒバリ
（胸赤田雲雀）
スズメ目 セキレイ科
全長 15.5cm



広くユーラシア大陸の北極圏、カムチャッカやアラスカで繁殖し、インドシナやフィリピンなどで越冬するセキレイの仲間です。渡りの季節に出会うことができます。

開けた草地や堤防沿いのような環境が好みで、よく似たタヒバリと間違われることもあります。旅のルートが違うため、出合える機会はまれです。しかし、南西諸島や日本海側の離島では、毎年たくさんの個体が通過しています。現地では、渡りも終盤になると、名前のような赤みを帯びた夏羽に出合えます。

温かくなると草木も芽吹き、昆虫が発生して、それを追って野鳥たちも北上して命の連鎖が始まります。新社会人として旅立つ若者たちも、厳しい現実には負けないように、自然界のように大海原を越えて幸せをつかんでほしいと願っています。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④